

な か ま

福岡県知的障害者施設保護者会連合会 会報

発行
福岡県知的障害者
施設保護者会連合会
(略称：福施連)

編集
広報委員会

〒812-0854
福岡市博多区東月隈
3-1-4-106
☎/FAX (092) 503-0579

社会保障を削減する

『我が事・丸ごと 地域共生社会』

平成30年9月29日、クローバープラザにて、福岡県知的障害者施設保護者会連合会主催、福岡県知的障害者福祉協会共催による、平成30年度福施連研修会が開催されました。

鹿児島大学教授の伊藤周平氏を講師としてお迎えし、『施設は変わる我が事・丸ごと 地域共生社会』をテーマにご講演いただきました。

現在の日本は、安倍政権の下で進む社会保障削減により、日本国憲法に規定する「健康で文化的な最低限度の生活」とはとても言えない状態となっており、世界と比較して貧困率が非常に高くなっている状況です。また、障害者福祉については、1990年代から介護保険と同様に「措置から契約へ」の流れがあります。2005年の障害者自立支援法

より、障害者がサービスを受けることとは利益ではなく必要不可欠なものであるにもかかわらず、応能負担(負担能力に応じた利用者負担)から応益負担(サービス量に応じた定率の利用者負担)へと改悪され、お金のない利用者はサービスを受けられないようになりました。さらに、20



17年には『我が事・丸ごと 地域共生社会』と銘打ち、「自助・共助・公助」を推進、これは事実上、公的支援ができないので、自分たちでどうにかしてください、と国民に丸投げしている状態になっています。

これに対し伊藤氏は、「介護保険と障害者福祉制度の統合は絶対に許さない」「介護保険は利用者の応益負担ではなく、税金で賄うべき」「障害者福祉について契約制度により施設に責任を転嫁せず、自治体が責任を持つべき」と主張されていました。

社会的弱者である障害者とその家族は、社会保障削減の狙い撃ちをされている状態です。私たち障害者の家族が今すべきことは、小さな声を集めて束とし、大きな声にしてこの流れを止めることしかありません。皆で最初の第一歩を踏み出すべきだと理解しました。

終了後のアンケートは、「難しかった」が7枚ありましたが、「よくわかった」「まあまあだった」が44枚ありました。

全施連全国大会開催

やれるぞ地方からも福祉の増進

明石市長熱く語る

平成30年10月23・24日13時から兵庫県明石市のホテル舞子ビラで全国知的障害者施設家族会連合会の第14回全国大会が開催されました。



会場には加盟県各地から545名の知的障害者の家族と兵庫県知事・神戸市長・日本知的障がい者福祉協会副会長などの来賓を迎えて、木村大会実行委員長の開会宣言に続き、由岐全施連理事長の挨拶から始まりました。

厚労省障害福祉専門官片桐公彦氏の行政説明の後、何と言っても圧巻は、泉房穂明石市長の知的障害者の弟と暮らした体験を元に、やれば出来るを取り組んだ明石市の様々な福祉政策を実現させた講演でした。2日目は午前9時から正午まで

「どうする？家族と我が子らの高齢化」と題する全員参加型討論会で、家族代表で第二田川学園保護者会長奥昭義福祉連副会長も壇上から施設の現状と課題を発言しました。

大会決議 安心・安全の施設

- 一、障害福祉制度と介護保険との一体化、統合は廃止して下さい。
- 二、24時間切れ目のない支援で快適に安心・安全に暮らせる障害者支援施設やグループホームを居住する家と位置づける制度を新設して下さい。
- 三、支援の制限に繋がる支援区分は本人に必要な支援が受けられる仕組みに変えて下さい。
- 四、安定して必要な支援が受けられる職員、定員増と処遇改善を急いで下さい。
- 五、知的障害者の特性を熟知し、福祉職の

第一回理事会開催

▼会費値上げは継続審議

平成30年9月1日クローバープラザにて18保護者会の出席で開催されました。

議長は庄山副会長で進行し、八木会長から直近の情勢報告後、4月からこれまでの活動報告がありました。その中で8月27日厚労省副大臣高木美智代氏との意見交換が公明党本部のお世話で行われ、「請願4項目」の要望事項、「介護保険施設との併設」は異論があることなどを陳情したとの報告もありました。

500円値上げについては、なお

専門家としての施設職員を育成して下さい。

六、生活保護以下の障害者基礎年金の引き上げ、憲法に保障された公的責任を果たして下さい。

七、国及び地方公共団体は、知的障害者への障害福祉サービスを提供する義務を負うこととして下さい。

平成30年10月24日

意見が一致せず、最善を期して再び継続審議にしました。

次年度役員改選は分散会で話し合い、執行部一任と決定しました。

福祉協会と懇談

平成30年9月13日福岡県知的障がい者福祉協会と二年ぶりの懇談会を行いました。

介護保険施設との併設、看取り問題、職員不足への対応、食事のカロリーの件など、また家族会の福祉連加入へのお力添えもお願いしました。

福祉協会側は木高会長他、志摩・早良・ひよりの丘学園の施設長と、福祉連から役員5名が出席しました。

第12回定期総会報告

＝どうする会費値上げ＝

平成30年5月20日クローバープラザで定期総会が開催されました。

29年度の経過報告・決算報告が承認され、30年度の活動方針と予算も決定されました。

また、福祉情勢の厳しさに対応する活動のため来年度から福施連会費の500円値上げ案が提出され、3組織が反対・上げ幅を小さくなどの意見や、2倍値上げ必要などもありましたが、継続審議で1ヶ月当り42円の増加が必要か否か、みんなで考えることにしました。

「入所施設の在り方提言2」の完売を！

全施連定期総会

6月11・12日全施連定期社員総会と理事会が大阪市で開催されました。

理事会では、請願4項目を中心に活動することと障害者支援サービスと介護保険サービスの統合を進めようとするに反対である、などの

方針が決定されました。

また、全国の書店でも販売される「入所施設の在り方提言2」が近く完成するが一部千五百円、五千部完売することの意義について激論が交わされた後に承認されました。

全施連九州ブロック協議会開催

7月10・11日全施連九州協議会が佐賀市のアパホテルで開催されました。

渡辺(熊本)ブロック会長の経過報告と九州ブロックとして会費を集めるかどうかについて協議しましたが、結論は次回に持ち越しました。

2日目は武雄市のすみよしの里統括施設長の「自己表現お手伝いが施設の任務」と題するミニ講演会と意見交換をしました。福施連3名参加。

厚労省副大臣と意見交換

厚労省副大臣と意見交換

平成30年8月27日公明党熊本支部企画の政策要望懇談会に招かれ、

その席に公明党の福祉に詳しい高木美智代厚労省副大臣の出席がありました。

福施連からは、八木会長が請願4項目と一昨年の福岡全国大会決議文を説明して全施連の要望に理解を求めました。

高木副大臣は、「施設のグループホ

施設保護者会紹介

蓮の実園・蓮の実団地

蓮の実園・蓮の実団地の両施設は八女の山奥から本年4月八女市内に移転し、離れていた両施設も同じ敷地内に新築され、家族会は「終の住処」を望んで積み立てていた貯金を新築資金の一部として寄付しました。居室は一人部屋・二人部屋で室内も以前より広くなり、利用者の笑顔が増えました。

保護者の住所は広範囲ですが、夏祭り・文化祭などの行事には多くの参加があります。

なお蓮の実園家族会から福施連の役員に庄山副会長、蓮の実団地家族

ームも住居と違って、地域生活支援の拠点として進めている。成年後見制度の改革や支援区分の廃止・人材不足、職員の処遇改善・施設の諸問題なども検討中」との意見が出されました。この意見交換には八木・奥・庄山・高倉・坂井・横山・横澤氏が出席しました。

会からは、横山みどり会長が組織委員会副会長として活躍しています。



福岡市障がい者施設支援課と意見交換 請願4項目決議への理解を...

平成30年7月20日福岡市障がい者施設支援課と意見交換をしました。

請願4項目と福岡大会決議文に記載された入所施設家族の願いを、新任の水町課長に理解を求めました。内部で引き継ぎが不十分なためか、課長は言葉少なでしたが誠実な応対で友好的でした。

福岡市の入所施設利用者の約半数は市街の施設を利用しており、福祉連と関係も深いことや、板屋学園の移転問題が早期に実現するよう、深い関心と協力をお願いしました。この意見交換には八木・奥・田中・坂井の執行部役員と福岡市内の保護者3名が参加しました。

筑後地区自民公明党議員と懇談

平成30年7月久留米市・柳川市・大川市・筑後市・八女市・みやま市の公明党市議会議員の方々と請願4

項目を中心意見交換をしました(筑後市の自民村上市議出席)。

支援の質が落ちて負担が生じる介護保険ではなく、最後まで障害者支援サービスを求める福祉連の活動は、初めて聞く意見のようで、関心を持たれたようです。

また、知的障害者の施設生活や施設運営のあり方などが、認識不足であるため、今後は福祉連の会合には出席できるよう努力しますとの発言もありました。

この意見交換には八木会長・奥・田中副会長他5名が参加しました。

大会に参加して

城山学園 田中勝子

全国大会に初めて参加しました。

初日は厚労省専門官の福祉施策の話と泉明石市長の「やさしい社会を明石から」と題しての講演がありました。私のレベルでは内容を全部理解できない難しさを感じました。

泉市長は、知的障害の弟さんがお

り、社会の冷たさから「やさしい社会」を心がける市政に取り組み、一つ一つ実現させていく熱意が聞く側によく伝わり感動しました。

そのため、若い人の転入で人口が増え税収も多くなり、福祉が豊かにできるとの話でした。私はこの市長さんと、もつとじっくりお話できたらと思いました。

養徳苑 川添マサヨ

全国大会の参加は障害者家族として自分なりの新たな気持ちのスタート日と位置づけて今回5回目の参加。今年は兵庫県神戸市で盛大に開催されました。

各県から参加された大勢の家族会の方々、思いや悩みは共感できる内容が多く、討論会でも真剣な熱い意見交換で全てが参考になり、知識を分けて頂きました。

明石市長の講演にも感動!

ご自身がどうして障害者福祉に関わられたか、その経緯に涙・涙・私も義妹の施設入所迄の出来事、

親が子供を預ける決意をした時の不安と苦悩を2年前96歳で他界した義母に幾度となく聞かされていたことを思い出し、つい重ねて涙・改めて今後も義妹に寄り添い支え続けていきます。

編集後記

最近の報道によれば障害者雇用率水増し達成の報告を、民間企業だけでなく官庁までもがしていたとは、実に許しがたい差別行為である。

障害者雇用率の中に知的障害者の割合は特別に決めなければ別の障害者で埋められる差別もある。

24号の台風一過、沖縄の知事選挙は米軍基地で様々苦しみを強いられ平和を切望する人達が勝利した。

軍事基地や武器購入に大量の税金を使えば平和は遠くなり、死者と障害者と破壊を生む戦争への道になる。福祉充実なしには生きられない知的障害者と家族の願いも、沖縄県民の諦めない強さに学び、根深い差別解消に世代を超えて汗を流そう。